本を作りました

記念誌

創業360年 林源十郎商店

斎藤隆さん（10期）と梶谷健志さん（21期）

発刊した記念誌『林源十郎商店物語』を手にする斎藤さん㊨と梶谷さん

倉敷で誕生、創業360年という歴史を誇る岡山県内最古級の企業で、医薬品販売の林源十郎商店の記念誌『林源十郎商店物語』が、令和２年３月に吉備人出版（岡山市）から発刊されました。

５年がかりで編集したこの記念誌には２人の青陵ＯＢが携わりました。同社後身の㈱エバルス初代社長・斎藤隆さん（10期）と、㈱エバルス元倉敷支店長・梶谷健志さん（21期）です。斎藤さんが同物語編集委員会の編集長でした。

斎藤さんら２人は「江戸前期の創業で江戸時代、さらに明治に入ってからも、会社を支えた幹部の人たちがすでに実在しないので資料や談話集めに苦労しました。それでも京都の古資料販売業者のインターネット掲示板に、『林源十郎商店に関する資料が売りに出されている』という情報を運よく社員がキャッチ、早速買い取りました。交流のあった頼山陽や山田方谷、緒方洪庵らの手紙や巻物を手に入れ、大いに助かりました。編集委員はよく頑張ってくれました」

編集に青陵ＯＢ２人 中心的役割

と、刊行の苦労を振り返り喜んでいます。

内容の時代考証も、山陽学園大学の太田健一名誉教授ら専門家３人に監修を依頼、的確に行いました。

同社初の記念誌はＢ５判、225ページで、紙面はすべて横組みです。上質の紙にモノクロとカラー写真を随所に入れ、すっきりしたレイアウトに仕上がり読みやすく工夫されています。

記念誌を社員の意識向上や新入社員教育に活用します。

同物語編集委員会は同年10月、記念誌を青陵高校へ寄贈しました。

同社は医薬品販売と新薬の開発・製造を通じて倉敷と岡山を中心とした県内外の地域医療の充実・発展に貢献してきました。長年、経営してきた林家は企業活動を通じて大原孫三郎、石井十次とともにキリスト教と社会奉仕の精神を根付かせた文化人一族でした。一族には現在、俗曲師として活躍する檜山うめ吉（本名・林知恵）さんがいます。

記念誌の贈呈を受ける髙槻校長㊨＝令和２年10月、校長室

□…青陵時代、梶谷さんは卓球部、斎藤さんは学校の土俵で相撲の稽古をして大学時代、相撲部で活躍しました。

詩集

22冊目の詩集「吉備王国…」を刊行

詩の道60年

岡（現姓古川）隆夫さん＝８期＝

岡山大学名誉教授で詩人の岡（現姓古川）隆夫さん＝８期＝が令和２年10月、４年ぶり22冊目の詩集『吉備王国盛衰の賦（ふ）』を刊行しました。

テーマを大和政権に対抗するほどの勢力を誇った吉備王国に絞り、古里の歴史を再度調べ直し、その興亡を歌い上げた老練な力作です。「吉備巨大古墳群」や「吉備真備と阿藤伯海」など19編にまとめています。

そのほとんどに「サキ」という巫女を登場させ、古代から現代までを俯瞰する人物として自らの気持ちを代弁する役割を与えています。

出身地の隣の「真備地区が西日本豪雨に遭い、吉備の国に改めて目が向いた」のがきっかけで選んだテーマです。

岡隆夫さん（現姓古川）第22詩集「吉備王国盛衰の賦」出版

古里の歴史高らかに

岡山大学名誉教授で詩人の岡隆夫さん（現姓古川）は、4年ぶりの詩集「吉備王国盛衰の賦（ふ）」を自費出版した。テーマは大和王権と拮抗する有力な勢力だった吉備。その古代の歴史を再度調べ直し、その興亡を歌い上げた。「吉備巨大古墳群」や「吉備真備と阿藤伯海」など19編にまとめている。そのほとんどに「サキ」という巫女が登場する。古代から現代までを俯瞰する人物として位置づけられ、その存在が作品を神秘的にしている。表題の「吉備王国の盛衰」では、

優れた製鉄技術で栄えた古代から、江戸、明治期を経て豪雨に見舞われた現代まで、約2千年に及ぶサキの記憶が語られる。

岡さんは倉敷市船穂町出身。隣接する真備地区を襲った西日本豪雨に大きな衝撃を受けた。人々の生活や思い出、町の絆などを根こそぎ奪う自然災害の脅威

「年を重ねた今でも、詩を書くのが一番楽しい。自分なりの深みと広がりを追求したい」と話す岡さん

岡さんの詩集出版を伝える記事＝令和２年10月30日付山陽新聞

岡さんは22歳の時、詩を作り始め32歳で『詩脈』を創刊、30年間続け通算１００号で終刊しました。その後、倉敷の結社「つるかまだ」に加入しました。詩づくり60年になります。

これまでに農業や反戦をモチーフにした作品を発表、農民文学賞や日本詩人クラブ賞など多数の受賞歴があります。「傘寿（80歳）を超えましたが今でも詩を書くのが楽しい。今後も体験と感動を表現していきたい」と、創作意欲は衰えません。

詩集は１冊２７５０円です。

こぼれ話

全国に「青陵」中・高ともに６校

テレビで偶然見た「多摩市立青陵中学校」（東京）という校名に興味がわき、全国に「青陵」中学校は何校あるのか、ネット検索してみました。

すると、東京を含め釧路（北海道）、豊橋（愛知）、江津（島根）、久留米（福岡）、武雄（佐賀）の計６校ありました。北海道から九州までの全国に広く点在、すべて公立でした。

夕張市には青陵小学校がありましたが、統合により今はありません。

ちなみに、「青陵」高校は全国に６校－という記事は、本紙「青陵」第46号10ページ「こぼれ話」として掲載ずみです。

「青陵」は中学も高校も全国に各６校という、偶然の一致でした。（編集室）

プロサッカー

挑む

森下仁道（じんどう）さん

邦人初 ガーナチーム入団

「本田圭佑選手を超えたい」

軽快な足さばきを見せてくれた森下仁道さん＝令和３年１月６日、水島緑地福田公園

もう一度、アフリカのプロサッカーで活躍したい―。大志を抱いて令和３年３月に日本から１万キロ離れたガーナへ渡りプロ入りした人がいます。中学時代は倉敷のクラブチーム「ハジャス」に所属、青陵高サッカー部からＪリーガーを目指して、日本のトッププレーヤー中山雅史選手らを生んだ名門筑波大学サッカー部で腕、ならぬ足を磨いた森下仁道さん（66期）です。

同年５月に、野口英世ゆかりのガーナ日本大使館でDWARFS FCチームの入団会見を行い、ガーナリーグ史上初の日本人選手となりました。地元メディア14社を前に「まずピッチに立つ、スタメン、そして初ゴールを決めて勝利に貢献する」と、元気に抱負を述べました。

早速、本格的に始動しました。この会報が発行されるころにはチームに溶け込み、はつらつとプレーしていることでしょう。

編集委員は渡航前の正月休み、水島緑地福田公園で会見、じっくり話を聞きました。

森下さんがボールになじんだのは５歳のオランダ時代です。父の転勤で滞在中、同国で活躍していた日本のトッププレーヤー小野伸二選手を見てあこがれたのがきっかけでした。

筑波大学サッカー部は部員160人、６軍という大所帯です。５軍からスタートして２軍まで上がりましたが、残念ながらレギュラーにはなれませんでした。

そこで、思い切って１年休学して国の留学支援制度を活用、ザンビアへ渡りました。同国トップリーグの「ＦＣ ＭＵＺＡ」に所属して、生活や練習環境の悪い中、リーグ戦では８試合でベンチ入り、４試合に出場して必死にプレーしました。

１年間のリーグ戦終了後、帰国して復学し次のステップ、Ｊリーグに挑戦しましたがけがなどで断念しました。青陵時代にも１年休学してインドネシアにサッカー留学するという入れ込みようでした。

同２年３月に大学を卒業、父の励ましもあり再度アフリカ渡航を決意しましたが、予期しない新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、やむなく１年延期したのでした。

再度の渡航は、アフリカのレベルの高さ、日本人が挑戦していない地域―が決め手だそうです。進んで厳しい環境に身を置く積極性に驚きます。

ちなみに、青陵高出身の筑波大学サッカー部員は、（当時、東京教育大学）副主将を務め台湾代表監督になった黒田和生さん（18期）以来、森下さんが実に48年ぶり２人目でした。

サッカー歴20年、すでに指導者のＣ級ライセンスを持ち、英語も達者な森下さんにプレースタイルを聞くと、「ディフェンスと駆け引きをして裏の抜け出しから少ないタッチでゴールを取る」と、自信を持って即答してくれました。

身長170センチが２メートルもある大男とせめぎ合う格闘技のような毎日ですが、「アフリカで名前が知られるような活躍をして本田圭佑選手を超えるのが夢です」と野望を吐露、「サッカーに限らず常に挑戦し続ける人生でありたい」と、終始力強い語り口でした。

ガーナ日本大使館での入団会見（前列左から２人目が森下さん）＝インターネットより

これまでの活躍ぶりは現地ザンビアの新聞や、ＫＳＢ（瀬戸内海放送）のドキュメンタリー番組にも登場して青陵高サッカー部の後輩部員を指導するなどマスコミにも注目される存在です。積み上げた経験を存分に生かして次のステップに挑む森下さんにエールを送ります。

□…森下さんへ先輩黒田さんからの激励談話をもらうことを試みましたが、黒田さんが病気療養中のため断念しました。

カメラマン

仁科勝介（かつすけ）さん

66期

バイクで全1741市区町村巡る

けがや職質乗り越え写真集2冊

気鋭のプロカメラマンを目指して全国の1741の全市区町村を踏破、写真集を立て続けに2冊出版した人がいます。令和2年春、広島大学経済学部を卒業、その道に入ったばかりの仁科勝介さん(66期)です。

きっかけは大学1年生の折、九州をヒッチハイクで1周、「日本は広く自分の知らないことばかり」を実感したことです。

1冊目は前年6月、『日本よはじめまして』という奇抜なタイトルで自費出版しました。

まず、バイクで全国の市町村を巡って写真を撮る―という目標を掲げ大学を1年休学、9カ月かけて沖縄から北海道まで1400の市町村を走破しました。

巧みなカメラワークで活写した写真約500枚に軽妙な文章を添えてA5判、150ページにまとめたのが本書です。800部印刷、関係者に配ったほか一部販売しました。

撮影行は山口市を目指した初日、広島の山中でバイクごと転倒、大けがをするという予期しないアクシデントから始まりました。

喜界島(鹿児島)で65歳から織物を始めたお年寄りに「やりたいと思ったら遅すぎることはない」と言われ心にズシンときたこと、全国から「やりたいことをやる」人が訪れる能登島(石川)の古民家に驚いたこと、茨城では食事や洗濯など生活の面倒をすべて見てもらい関東を巡る拠点として1カ月も滞在させてもらったことなどが、臨場感あふれる写真とともに紹介されています。

「お巡りさんに職務質問されたり時に孤独感もありましたが、全国の多くの人の人情に助けられ第一作ができました。感謝でいっぱいです」と締め括っています。

その後、全市町村1718プラス東京23区を制覇して同2年8月、第二弾『ふるさとの手帖』をKADOKAWAから商業出版しました。B5判、320ページの大作で、写真約1800枚を収録、随所に文章を添えた全国制覇の総集編です。初版6000部を印刷、1冊3498円(税込み)です。

全国踏破にかかった費用は約200万円で、大半をアルバイトとクラウドファンディング(CF)で賄いました。

仁科さんの活動に共感したコピーライター糸井重里さんが『ふるさとの手帖』の帯に、「彼の写真は、やさしい挨拶　あなたの代わりに、写真を撮ってきたみたいですよ。」というソフトなキャッチコピーを寄せています。売れ行きは上々のようです。

このユニークな企画は同年10月28日付の山陽新聞で紹介されました。

仁科さんは中学では野球部、青陵時代は光画部と天文部、大学時代は写真部と茶道部という〝守備範囲〟の広い人です。今後の活躍が期待されます。

□…仁科さんは『日本よはじめまして』を青陵高校図書館へ寄贈しました。

出版した2冊の写真集を持つ仁科勝介さん。左が1冊目

日本を一周した仁科さんのバイク=インターネットより

進路指導課長　岡田　泰全（やすまさ）

進路　入試改革、豪雨禍乗り越え

国公立に7割超　231人合格

令和2年度は、231人（現浪込み）が国公立大学に合格しました。難関大学・医歯薬の合格者数は40人で、そのうち医学部医学科には3人が合格しました。この学年は、入試における英語資格・検定試験の活用や共通テストの国語・数学への記述式問題の導入など、結局は白紙に戻されることになった「改革」に翻弄されました。また、居住地によっては1年生の時に平成30年7月豪雨で被災した生徒もいました。さまざまな困難を乗り越えて、生徒の皆さんがよく頑張った結果であり、生徒の志望を高めそれを貫かせた進路指導の成果でもあります。

今年度も生徒たちは高い目標を持って日々の学習に取り組んでおり、私たちもコロナ禍を吹き飛ばす勢いで指導しています。緊急事態宣言中は土曜開放の授業ができないことが多いのですが、オンライン授業を実施しています。

さて、近年は国公立大学も学校推薦型選抜・総合型選抜の定員を増やしつつあります（令和2年度実施の入試で、国公立大学の定員の21・6％）。

岡山大学も現在の高校2年生の入試から全学部で一般選抜の後期日程を実施せず、その分の募集人員を学校推薦型・総合型に回すことを発表しました。国公立の推薦型・総合型入試は決してやさしくはありませんから、希望する生徒は一般入試に向けた学習を進めつつ、どのように準備するかが課題となります。指導する教員としても、その両立に本気で取り組まなければなりません。

卒業生の皆様には引き続きご理解、ご支援の程をよろしくお願いいたします。

東大1、京大5、岡大57人

早明8、関関同立126人

2021年入試合格大学（既卒含む）

難関国立大学

東京大……1	大阪大……12	神戸大……8
京都大……5	九州大……9	
	東北大……1	**難関大 合計 … 36**

国公立大学

お茶の水女子大…1	鳥取大……10	香川大……19
電気通信大……1	島根大……7	愛媛大……13
東京都立大……3	岡山大……57	高知大……2
東京海洋大……1	岡山県立大……17	九州工大……4
横浜国立大……2	広島大……6	その他の大学…34
神戸市外大……4	山口大……4	
	徳島大……10	**国公立大 合計…231**

国公立医歯薬

国公立医学科……3	国公立薬学科……1	**国公立医歯薬 合計…4**

岡山大学 学部別

法学部……6	教育学部……9	薬学部……4
経済学部……8	理学部……2	グローバルディスカバリープログラム…1
文学部……5	工学部……13	
	医学部保健学科…9	**岡山大学 合計… 57**

主な私立大学

青山学院大……1	立教大……1	関西大……20
上智大……1	早稲田大……3	関西学院大……28
中央大……3	法政大……1	岡山理大……26
津田塾大……1	同志社大……28	川崎医療福祉大 36
明治大……5	同志社女子大……4	就実大……36
	立命館大……50	清心女子大……60

「SCHOOL GUIDE 2022」より

生徒指導課長　平松　利文

生活　コロナ禍でも部活好成績

前年度のように休校こそありませんが、コロナ禍に振り回されました。特に2年生は入学以来、中学時代に思い描いていた本校での生活とは全く違った日々を強いられています。春季球技大会は実施されましたが、楽しみにしていた修学旅行は中止となりました。

部活動は2度にわたる県の緊急事態宣言（5月中旬と8月中旬に約1カ月）を受け、公式大会間近（概ね1カ月以内）の部だけが活動を許可（ただし他校との練習試合や合宿は禁止）されるという大きな制限を受けながらも、県大会で上位進出を果たすことができた部も多く、さらに中国大会や全国大会に出場できた生徒も続出しました。現在（9月下旬）も相変わらず制限は続いていて、新チームでの活動に大きな支障をきたしているのが悩みの種です。

最善の取り組み青陵祭成功

緊急事態宣言期間中に開催された青陵祭は、安全に成功させるため、8月下旬の準備期間から生徒会を中心に全校生徒が最善の取り組みを行った結果、無事に終えることができました。未来に明るい大空が広がるようにという思いを込めて「水天一碧～この夏、青に染まれ～」をテーマに掲げ、コロナ禍ならではの創意工夫を凝らした演出が数多く見受けられ、「さすが青陵生！」と感心させられました。昨年同様、無観客開催でしたが、業者によるユーチューブでの限定公開発信を試みたところ、保護者からも高評価でした。

渡邊菜穂（女子走り幅）中国大会制す

女子走り幅跳びを自己ベストの5メートル74で制した渡辺菜穂

女子走り幅跳び 渡辺（青陵）

2年生が部史に刻むジャンプだ。女子走り幅跳びの渡辺菜穂は、男女の全種目を通じて青陵勢初の戴冠。「歴史を動かせてうれしい」と屈託なく笑う表情は16歳のあどけなさが残る。

「舞い上がりやすく、落ち込みやすい」と自覚する精神面が課題だったが、1回目に自己記録を1センチ上回る5メートル59を跳び、緊張が解けた。踏み切りの感覚が良かった3回目。2・0メートルの絶好の追い風にも背を押され、164センチの体がふわりと浮く。5メートル74で上位争いを抜け出した。

今大会は男子トラックの部で学校対抗3位に食い込むなど健闘が光った青陵。「先輩たちの勢いに乗せてもらった」と渡辺は謙遜する。

反省点を挙げるなら後半3回の試技で記録を伸ばせなかったこと。「暑さで体の切れがなくなった。克服しなきゃいけない」。倉敷・庄中3年時に全国中学校大会で10位。初のインターハイは決勝進出が目標だ。

中国大会を制覇した渡邊菜穂選手＝令和3年6月24日付

青陵史上初の快挙

コロナ禍の令和3年夏、岡山県高校総体から北信越インターハイまで陸上競技を中心に運動系の青陵生が大活躍しました。

中でも一番のニュースは、女子走り幅跳びの渡邊菜穂が、6月の中国大会で男女の全種目を通じ青陵史上初めて見事優勝したことです。Vジャンプは5メートル74の好記録でした。

男子の短距離コンビ、100メートルの檀上亜里が5位、200メートルの中田昂宏が3位、檀上が5位、400メートルの中田が3位にそれぞれ入賞しました。この2人と向井大貴、稲垣陽天、板橋暖叶、畝田光太朗の計6人がエントリー、400メートルリレーで2位に食い込みました。

渡邊を含むこのメンバー7人はそろって7月のインターハイへ出場しました。個人種目は上位に入れませんでしたが、400メートルリレーは準決勝まで進みました。

5～6月の県総体では、檀上は100メートル、中田は400メートルのチャンピオンになりました。

同じく、水泳男子200メートル個人メドレーで本田菜翔が優勝、女子100メートル自由形で森髙遥凪が3位に入りました。卓球男子団体は決勝リーグに進み3位、バレーボール男子はベスト8直前の4回戦までコマを進めました。

陸上競技部顧問の広瀬洋介先生は「彼らは1年生の時から有望でした。中国大会はトラック部門2位、総合8位でした。青陵より上位の学校はすべて体育系の学校ばかりです。今までで最高の成績でした」と満足そうでした。

（文中敬称略）

□…記事はいずれも山陽新聞です。

男子短距離6人もインターハイへ

陸上男子100 檀上（青陵）

陸上男子100メートルを10秒96で制した檀上亜里

"伏兵"が最速スプリンターの座を手にした。陸上男子100メートル決勝。向かい風1・2メートルの条件下で檀上亜里（青陵）が唯一の10秒台となる10秒96で駆け抜けた。

全国経験はなく、総社西中時代のベストは12秒台半ばで県内ランキングは80位台だった。高校で地道に取り組んだ筋力強化が飛躍の要因だ。この2年で体重は15キロ増え、身長180センチのストライドを生かせるパワーが身に付いたという。

公認記録の10秒台は自身初。3年生は「成長を確かめられた。でも、10秒台中盤を出さないと勝負にならない」。弱点と自覚するスタートを改善し、夢の全国切符獲得に挑む。

岡山県高校総体を制した檀上亜里選手＝同6月3日付

男子400 中田（青陵）頂点

冷静な走り 僅差の勝利

陸上男子400メートルを僅差で制した中田が勝利を確信したのはラスト100メートル。意外にも2位の選手に並ばれた瞬間だったという。「必死に追い付いてきた感じで、余力は自分が上。（広瀬監督に）『頭で走れ』と言われ、冷静にレースを運べた」。進学校の青陵らしい。

自己ベストの48秒38は大会記録まで100分の8秒。「更新できず残念だけど、勝てたことが自分には大きい」。1年時の県総体はわずか0秒04差で中国大会出場を逃した。昨年はコロナ禍に加えて脚の故障で満足に練習ができなかっただけに高校ラストイヤーに懸ける思いは強い。

平日は2時間未満と限られた部活動の中でも工夫し、身長177センチのストライドを生かす走りを磨いてきた。「47秒台を出し、全国で勝負したい」と集大成の夏を見据えた。

男子400メートルを48秒38で制した中田昂宏

岡山県高校総体で優勝した中田昂宏選手＝同5月29日付

祝

宮本（旧姓守安）加代子さん＝8期・家庭科

短文芸

全日本短歌大会で文科大臣賞

「ルネサンスを産んだペストに学べよとニュートンのこゑ五月の風に」で令和2年9月、見事、第41回全日本短歌大会で最高賞の文部科学大臣賞を受賞した人がいます。この道30年、2万首を詠み込んだ8期・家庭科の宮本（旧姓守安）加代子さんです。

全日本短歌大会は毎年、日本歌人クラブが主催している国内最大級の大会です。受賞に「びっくりしました。今回初めて応募したんですよ。ペストの流行から生まれたルネッサンスのように、いま人類が苦しむコロナ禍から新しい文化が生まれてほしい―という願いを込めたんです。選者に理系の方がおられてね、時宜を得た歌という評価を受けたのでしょうか」と喜びを語っています。

同月26日に予定されていた晴れの授賞式（東京）は、コロナ禍の関係で中止になりました。

これまでに岡山県文学選奨入選、NHK全国短歌大会大賞4回など華々しい受賞歴があり、賞状が引き出しに100枚ほど保存されています。

文部科学大臣賞の賞状を手にほほ笑む宮本加代子さん＝令和2年10月1日

ちょうど取材中に今回の快挙の表彰状が届きました。「これ（文部科学大臣賞）は額に飾ろうかな」と、にっこりしていました。

最初、陶芸家を志し独学で作陶していましたが、人の勧めで短歌に転向、早速、全国でも屈指の結社・龍短歌会（岡山）に入会して精進を重ねました。「字がまろやかなので、よく友達にラブレターの代筆を頼まれたり、父がたくさんの日記を残すなど文学的素養があったのかもしれません」と笑いながら転向理由を探っていました。

テーマは主に自然、それに7年前に亡くなった夫をしのぶ夫（つま）恋の歌だそうで、文語調でカタカナを多用するのが特徴です。同元年10月に、これまでの作品373首を選び処女歌集『日向に座る』を自費出版しました。表紙には自らの陶芸作品をあしらい、扉のページに「亡夫と家族に」とあります。家族や旅、季節の移ろいのほか、夫の壮絶な闘病生活や別れの悲しみを、磨き上げた表現力にユーモアを交えた結晶度の高い作品群となっています。

『日向に座る』は同2年11月、日本歌人クラブ中国5県優良歌集賞を受賞しました。

毎年応募している宮中歌会始には入選経験がなく、「今後も短歌としっかり向き合います」と、新たな意気込みを語っています。

□…『日向に座る』は1冊3000円（税別）です。宮本さんは青陵時代は茶道部で、かつて裏千家流茶道の先生をしていました。

この道30年

作品寄稿　小寺（旧姓安田）三喜子＝12期

短歌の作品15首を寄せてくれた小寺（旧姓安田）三喜子さん＝12期＝は、「一緒に始めない？」という近所の友人の誘いがきっかけで詠み始めました。時に46歳でした。今では30年を超えるキャリアになりました。

始めて間もなく龍短歌会（岡山）に入り、倉敷地区の歌会で月1回、腕を磨いてきました。さらに、全国組織の現代歌人協会に参加、新聞の歌壇や短歌雑誌にも積極的に投稿しています。詠んだ歌は3000首に上ります。

龍短歌会同人　珠玉の15首

自費出版した処女歌集『サヨナラ三角さるすべり』で、福岡の筑紫歌壇賞を受賞しました。これを含め歌集は2冊です。

大学を卒業して大原美術館に勤務した後、結婚、専業主婦の傍ら、歌づくりに励んできました。

青陵時代、1年生は新聞部、2年生から「運動はそんなに得意ではないのに」友達に誘われ、ソフトとハンドボール部の助っ人をしたそうです。

「12期はね、みんな仲がいいんですよ。今でも美観地区のレストランによく集まってお茶会をしています。短歌の趣味はこれからも続けます」と、元気に話しています。

春から夏へ

雨の日の心になりて夜来の雨に濡るる貝母（ばいも）①の花にしやがみこむ
立浪草②の白の群落を波とゆらして吹きわたりゆく風の幻
川のむかうは浄土のやうな黄金（きん）の色③蛇結茨（じゃけついばら）の花が乱れ咲き
今立川（いまだてがわ）④の土手を覆ひて咲き盛る蛇結茨を知る人もなし
夕日いま荘厳の色を増しながら蛇結茨の花に降りそそぐ
あをあをと木々の勢（いきお）ふ山にありて吹き出づるが如し椎の若葉は
「死出の田長（たをさ）⑤」の声かもすると仰ぐ空明るき季（とき）に母は逝きけり
母の逝きし五月の空の明るさに鳴きわたりゆくほととぎすの声
ベッドの母とともに聞きたるほととぎす今わが頭上にありて鳴くなり
年古（ふ）りし大楠の幹苔むしてはつなつの日に白く光りをり
初夏（はつなつ）のこの曇天に狂へとや群集が匂ひ若葉が匂ふ
みどり濃きもみぢの葉群（はむら）に見え隠れして蒿雀（あをじ）⑥がしきりに飛び交ひてゐる
渋川の沖に霞がうごきをり瀬戸大橋がやがて見え来（こ）む
松原には鳩と雀が遊びをり浜の砂には人間が遊び
松原の沖の海なる青波のきらきらしさよもう夏が来る

［言葉の説明］①中国原産のアミガサユリ。花径2、3㌢の地味な花②シソ科の多年草。夏に紫や白色の花をつける③枝がつる状に絡む落葉低木。黄色の花をつける④笠岡市を流れる2級河川⑤田の主⑥ホオジロ科の鳥。全長約16㌢で緑褐色

祝

平成29年の倉敷市民文学賞に青陵ＯＧ2人が大賞に選ばれました。短歌の池田（旧姓難波）邦子さん＝４期＝と、川柳の浅野（旧姓大橋）美代子さん＝16期・家庭科＝です。

倉敷市民文学賞大賞に青陵ＯＧ２人

川柳・浅野（旧姓大橋）美代子さん＝16期・家庭科

廻り道

B面のシナリオ長い廻り道
四次元の海を迷走回遊魚
トンネルの向こうへ続くロスタイム
スパイスをたっぷり注ぐ着地点
アナログの空を悠悠竹トンボ

［選評］B面というのはA面に必ずついてくる。A面が夫なら私はいつもB面だった。廻り道をしたけれどもここまでやってきた。決して後悔などしていない。なぜなら、四次元という、異次元の世界へ作者の目は向いているからである。これからは、私が主役で、私の道を行くのだ。トンネルの暗さであろうが、ロスタイムの短さであろうが無駄にすることなく、精一杯生きようとする前向きな姿が見える。川柳というよりポエムに近い句。

（選者・柴田夕起子）

ポエムのような構成力

浅野さんは、川柳を詠んでいた夫の影響で、「じゃあ私も」と始めて45年になります。「家業の店番や家事の傍ら、いつでもできますから」と気軽に取り組んできました。

地元の結社「川柳たましま社」に入って仲間と一緒に励む一方、山陽、毎日、読売の各新聞の柳壇に頻繁に投句しました。「はっきり覚えていませんが、山陽の一席を10回ぐらい、毎日の特選、読売にも上位に入ったことがあります」と、投句で磨きをかけました。

60歳ごろから岡山県内外の川柳大会に参加するようになりました。岡山、津山、真庭、高松、姫路などへ積極的に出掛け、新たな刺激を受けてさらに脱皮しようと心掛けました。

倉敷市民文学賞はこれまでに佳作はありましたが、大賞は初めてでした。作品は「廻り道」と題し、自分の半生を「B面」に置き換えて過去を鋭く振り返り、新たな気持ちで生きる決意を5句にまとめました。選評の通り、一編のポエムのような構成力です。

「元気でいる限り続けますよ。句集の出版？いやあ、やりません」と、淡々としていました。

青陵時代は華道部でした。文化祭で花笠踊りをした記憶があるそうです。

短歌・池田（旧姓難波）邦子さん＝4期

結婚式

亡き夫に女孫の挙式見せむとて遺影を抱き前列に並む
花嫁はスピード好きのその父に「スロースロー」とバージンロード
「ロックフェス15」と名付けし披露宴老いたるわれには異国のごとし

［選評］結婚式の様子が臨場感ある表現で伝わってきます。外来語を多用しながら、きちんと定型を踏み斬新さの光る作品になっている所が見事です。一首目、結句の現在形の結びが効果的で、作者の強い意志が感じられます。二首目、「スピード」「スロースロー」から、花嫁とその父親が醸しだす場の雰囲気が、読む者に伝わってきます。最後の歌、今風の披露宴を「異国のごとし」と表現しながら、楽しみ祝福している作者の姿が浮かんできます。

（選者・大橋秀美）

今風の結婚式に驚く

池田さんは、心情を端的に表現する短歌に魅せられＮＨＫの短歌番組をよく見ていましたが、母の介護の合間に週刊文春の短歌募集に応募、運よく佳作に選ばれたのがきっかけで本格的に短歌づくりを始めました。時に〝60の手習い〟でした。

池田邦子さんの歌集『しだれ紅梅』＝倉敷市立中央図書館蔵

近所の友人に誘われ、地元の西阿知短歌会や岡山県歌人会に加入して歌づくりに励みました。傘寿（80歳）を記念して処女歌集『しだれ紅梅』を自費出版しました。大賞受賞はその3年後のことでした。

作品は「結婚式」をテーマに作した力作3首です。「しっかり励んだことが報われました。選者の選評が気に入っています。ありがとうございます」と、喜びをかみしめています。

これまでにも、東日本大震災を詠んだ作品がＮＨＫ全国短歌大会の特選を受賞するなど岡山県内外で多くの受賞歴があります。短歌づくり26年、ち日打毎益々むこです。

青陵時代は華道部、文学劇部、演球部、卓は務兼務、部でをと部長る劇部めう超パー・ガールでした。

□…歌集『しだれ紅梅』は青陵高校図書館に寄贈しています。

ちまたの風

短歌は生涯の友

3月11日。9年前の2011年、東日本大震災が発生した日。当時、石巻方面で働いていた息子が、社長の機転で命拾いした忘れられぬ日でもある。毎年、発生時刻の午後2時46分には、息子も私もそれぞれの居所で必ず黙とうをする。

東日本大震災の翌年1月21日に開催されたNHK全国短歌大会に、私は次の1首

〈就職のよろこび瞬時に消え失せぬ会社丸ごと呑みし津波に〉

を投稿した。思いもよらぬ特選を頂き、NHKホールへの出場も決定。悲喜こもごもの日を送っていた矢先、眼底出血を発症し、ドクターストップが掛かった。

出場できなかった無念さをバネに、全国大会への投稿を毎年続けてきた。たまに秀作や佳作を頂くが、特選は夢の夢！ ボツがないことがせめてもの救いだ。

言うまでもないが、「賞」は狙って取れるものではない。頭でつくるものでもない。感動した心を素直に表現すればよい。今まで頂いた入賞歌を声に出して読むと、どの歌もつかえることなくすらすら読め、同時に意味もすんなりと伝わる。

これからも残された命を大切に短歌を作り、日々楽しんで生きていきたい。

（池田　邦子・85歳）＝倉敷市

令和２年４月11日付山陽新聞夕刊

まつり

こんにちは

こはらだ ひとみ（54期）です

リケジョ、ピアノ、バド…マルチな人

ペンネームですみません。こんなの同級生にいたかな？　と思われるかもしれませんが、よーく眺めていると分かると思います。そう、この中に本名が隠れています。漫画家のため、本名の漢字で書くと作品のイメージが崩れるかもしれないので、ごめんなさい（笑い）。

備中地域の機関誌『高梁川』第78号（令和2年12月発行）でデビューしました。「マンガで知る高梁川流域人物伝」と題した連載で、初回は総社で生まれた江戸中期の地理学者・古川古松軒（こしょうけん）の一代記を10ページにまとめました。

私の手法ですが、シナリオはやや不得手でフィクションよりもノンフィクションで、絵でいかに見せるかにこだわります。私と同じ備中地域の風土の中で生きてきた人々の生き方をしっかり調べます。

司馬遼太郎が好きなんですが、この人はその地域の風土や習慣、産物などを丹念に調べて、1点に凝縮して書き上げるでしょう。これですね。歴史漫画にこだわってはいませんが、ファンタジーなタッチはないです。

創刊80年になる『高梁川』は随筆集であり、本格的な漫画の掲載は初めてだそうです。「読者は漫画コーナーで一服しているようです」と、編集者に言われ、うれしかったですね。

次は誰を取り上げるか、編集者とよく相談しながら決めます。あまりにも有名な人は避けようかな、と思います。

機関誌『高梁川』で漫画家デビュー

物理、宇宙好きのリケジョで、北海道大学の水産学部で海洋物理学を専攻しました。2カ月間大学の調査船に乗ってベーリング海からアラスカ、ハワイを巡り、水深2000メートルまでの海流の経年、季節変化を調べる、つまり海を輪切りにするという作業をしました。蓄積したデータを分析するのが大好きなんです。シャケを捕って食べながらね、楽しかったですよ。

漫画家デビュー作「古川古松軒」＝『高梁川』第78号より

ところが、卒業はしたものの大学院進学をあきらめ、就活もせず…という状態になりました。親はひやひやだったでしょうね。

そんな時、東京の漫画家のHPでアシスタントの募集記事を見つけたんです。これだ！　と思い早速、飛行機と建物を描いて応募、なんと採用されたんですよ。「君が一番下手だった」と言われましたけどね（笑い）。船に乗ってた、というのが気に入られたようです。

漫画家の制作スタッフとして、注文に応じて作品を毎月6本描くというような修業を5年ほど積んだ後、帰郷しました。

えっ海から陸へ？　大学の専攻と漫画が全く結びつかない、と思われるかもしれませんが、もともと小中学校時代から絵が得意で、ポスターや絵画コンクールで入賞を連発してたんですよ。それに漫画ファンの父の空気も吸ったかな。

青陵時代はバドミントン部でした。中学時代からしていて、結構強かったです。県大会は団体ベスト8、個人ベスト16ぐらいまでいきました。

小学校時代からピアノを習っていて、青陵の文化祭では1年生の歌の発表でピアノを弾きました。ミスチルをね。

帰郷する直前、スペインに1カ月語学留学、といってもホームステイのための語学で、こうすれば滞在費がかなり割安なんです。家では観葉植物や多肉植物をいじってます。何をやっても楽しい性格です（笑い）。

（令和3年5月　談）

ますます元気

安田 央（ひさし）さん（28期）です

バドミントン 主力で活躍、インターハイ出場

現役復帰、社会人連盟副理事長に

バドミントン部で実績を残した1人に安田央さん＝28期＝がいます。中学から大学までプレーした兄の影響で、安田さんも中学で始め青陵時代の計6年間、バドミントンに果敢に取り組みました。

岡山県大会でプレーする2年生の安田央さん＝青陵高体育館（安田さん提供）

中学時代に早くも県大会を制覇した有力選手で、高校でも毎日、朝練と放課後に練習を積みました。負けず嫌いの性格もあり人知れず努力を重ね、同期の仲間と競い腕を磨きました。

身長177㌢、攻守備わったオールラウンダーとなり、主力選手として各種大会に出場して活躍しました。

結果は現れ、中学に続いて高校でも県大会で優勝することができました。「勝つことの喜び、負けることの悔しさの両方を知ることができました」と振り返り、「中学、高校とも岡山県の『優秀選手』に選ばれ、充実したバドミントン生活でした」と言います。

唯一の後悔は3年生のインターハイ予選です。個人戦のシングルス、ダブルスで出場を決め、もう一つ、団体戦の優勝を狙っていました。戦力からして青陵の優勝は確実と思っていましたが、倉敷工業に僅差で敗れ、惜しくも出場3冠を達成できませんでした。

気持ちを新たにして出場した長野インターハイはシングルス、ダブルスとも1回戦で敗退しました。「中学に続いて高校でも全国大会では勝ち進むことができず、トップクラスとのレベルの差を痛感しました」と、実力不足を認めざるを得なかったそうです。

全国レベルで活躍できず、「（バドミントンは）もういいかな」と、大学では入部せず、就職してからも小中学生を指導する程度の緩い関わり方をしていました。

ところが50歳前に転機が訪れました。長女の部活やバドミントン大会の観戦を通じて突然、「今度はバドミントンを、勝ち負けではなく楽しもう」と、新たな意欲がわき30年ぶりに再度プレーヤーに復帰したのです。

還暦の年にスポーツマスターズ大会（岐阜）で団体戦5位入賞、中国地区シニア大会でダブルス優勝、シングルス3位の好成績を収めました。県外で初めて栄冠の喜びを味わいました。

現在は岡山県社会人クラブバドミントン連盟副理事長、岡山県バドミントン協会理事を務めています。「来年（令和4年）は岡山で日本社会人クラブバドミントン選手権大会が開かれるので出場に向けて準備をします。今後は岡山のバドミントン界に恩返しをしますよ」と、益々意欲を見せています。

□…安田さんは水島信用金庫常勤理事本店営業部長です／本部同窓会会長の岡田展弘さん（25期）は大学、職場の先輩です。

乱打戦、一歩及ばず

夏の高校野球岡山大会（令和3年7月13日）

▽1回戦

青陵	1	8
津山東	0	10
二塁打	藤田（青陵）	

守備が安定せず悔しい

前野且規主将の話　持ち味の打力は発揮できたが、守備が安定せず、大量点を許してしまった。後輩はこの悔しさを糧にして、失点しないチームになってほしい。（山陽新聞より）

2022年の予定

本部総会

8月7日(日) 午前10時から
倉敷アイビースクエアのエメラルドホール
〈当番幹事〉未定

東京青陵会

6月4日(土) 午後3時から
東京・明治記念館

近畿青陵会

開催の方向で検討中。

九州青陵会

10月8日(土) 午後4時から
福岡・西鉄グランドホテル

（以上、変更・中止の可能性あり）

編集を終えて

◉…「（本紙の）活字が小さくて読みにくい」という声を以前から聞いていましたので、今回、紙面改革を行いました。文章の活字ポイントを従来の8.5または9から10に上げました。かなり目に優しくなったと思いますが、いかがでしょうか。

◉…記事量やレイアウトの感覚をつかむため、事前に1ページ分だけ試作品を作りました。その結果、シミュレーションは成功しました。この感覚でほぼすべてのページのレイアウトをしたのです。会報編集を依頼されて10年目になります。今後とも皆様方に興味深く読んでいただけるような紙面づくりに努めます。

（編集主幹・佐藤豊行）

〈本紙の編集〉

＊原稿締め切りは毎年9月20日です。編集、校正作業を経て12月末に全卒業生にお届けします。

＊幹事の当番期に拘わらず、広告掲載をお願いしています。1枠5000円です。

岡山県立倉敷青陵高等学校「同窓会だより 青陵」第53号

発　行　岡山県立倉敷青陵高等学校同窓会
［事務局］〒710-0043　倉敷市羽島1046-2　TEL:086-422-8001　FAX:086-422-8004
e-mail:seiryo05@pref.okayama.jp　URL:http://www.seiryo.okayama-c.ed.jp
発行人　岡田展弘（25期）／編集委員　今岡道雄（13期）　佐藤豊行（18期）　林俊輔（28期）
顧問　加川英郎（4期）／表紙揮毫　澤田虚遊（21期）
印　刷　株式会社サラト　〒670-0948　兵庫県姫路市北条宮の町172

お願い　同期会や同窓生の情報、話題を佐藤豊行（編集主幹090-6438-9227）、林俊輔（青陵高校教諭）へお寄せください。

コロナ禍

活動困難

中川先輩ありがとう♪

青陵高校のステージ＝倉敷市民会館

コロナ禍の令和２年秋、母校青陵をはじめ開催できなくなった高校吹奏楽部の発表ステージをプレゼントしようーと立ち上がった人がいました。吹奏楽部ＯＢの中川啓さん（43期）です。

ＯＢ中川啓さん（43期）企画、成功

高校の「全力吹奏楽部思い出演奏会」を企画、成功させた中川啓さん

中川さんは東中、青陵高の吹奏楽部で、いずれもトランペットを担当しました。２年時には実力を買われコンサートマスターに指名されて学生指揮者を務めました。洗足学園音楽大学（川崎市）を卒業後、家業の吹奏楽専門の楽器店を継いでいます。

吹奏楽に特化した楽器店は岡山県内唯一と思われます。それだけに、日ごろから吹奏楽部員がよく訪れ、楽器の選び方や演奏技術の相談を受けるそうです。

コロナ禍が１年中続いたため、コンクールや定期演奏会などが次々中止に追い込まれ、練習成果と実力を試す場が失われ、部員たちは悶々とした日々を過ごしていました。

この状況を察していた中川さんは、青陵高の吹奏楽部の顧問で同部の先輩・渡辺真由美先生（33期）や天城高校に相談、「それはいい企画です。ぜひやってください」と、快諾してもらいました。

青陵や操山９校 倉敷に集い熱演

公演を12月20日、倉敷市民会館と決めました。３密を防ぐため参加者を、出場する吹奏楽部員と保護者、学校関係者に限定、演奏時以外はマスク着用としました。

早速、参加しやすい県南の高校に絞って募集する一方、山陽新聞社や中国銀行などが連携したクラウドファンディング（ＣＦ）サービス「晴れ！フレ！岡山」を活用して資金集めに乗り出しました。10月と開催直前の２回、中川さんの計画と進捗状況が山陽新聞の大きな記事になり注目を集めました。

11月末までに目標の200万円を超える270万円余りが集まりました。この中には青陵高吹奏楽部や関係者の寄付金約50万円が含まれています。当日は同会館の貸し切り使用料100万円を含む運営費、コロナ感染防止対策費、ＤＶＤ製作費などがほぼ調達でき、開催の目途が立ったのです。

県立９高校、約400人の出演が決まり、用意されたコロナ禍のワンチャンスの公演を「全力吹奏楽部思い出演奏会」のタイトル、「未来へ届け！この響き！」のテーマで無料開催しました。ＣＦサービスを推進する中国銀行は加藤貞則頭取が実行委員会名誉委員長に就き、行員約25人がボランティアで受付業務などの協力を惜しみませんでした。

後輩吹奏楽部員に発表ステージ贈る

ステージは１校20分、倉敷南を皮切りに芳泉、倉敷中央、古城池、一宮、操山、倉敷商、青陵の順に出演、天城がトリを務めました。

各校とも、１年の活動成果を発揮、コロナ禍を吹き飛ばそうとエネルギッシュな演奏を展開しました。文字通り、特別な思い出を刻んだステージとなりました。

青陵は作村真依部長（２年生）ら49人が白いブレザー姿で出演、渡辺先生らの指揮で、クリスマスにちなむ曲や「オーメンズ・オブ・ラブ」など４曲を披露しました。

駆けつけた同級生や部員の保護者ら約100人から温かい拍手が送られました。運営スタッフから「青陵が一番聴衆が多いですよ」という話を聞きました。

渡辺先生は「生徒は『（中川先輩らが）こんな機会を与えてくれるなんて…』と感激していました。演奏会が決まってから１カ月足らず猛練習しました。部活を支えてくれた多くの人に感謝します」と喜んでいました。

出演した吹奏楽部員

実行委員長を務めた中川さんは「参加してくれた吹奏楽部員はみんな楽しんでステージを務めてくれました。検温や問診票提出などコロナ感染防止対策に努め、視察に来た倉敷市役所の人に『万全です』と褒められましたよ」と、成功にほっとしていました。

中川さん、参加校の皆さん、ありがとう、そしてお疲れさまでした。